

平成28年度 第2回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 平成28年11月18日(金) 第2回帯広市健康生活支援審議会終了後
19:45~20:35
2. 場 所 帯広市役所 10階 第3会議室
3. 出席委員 稲葉秀一部会長、小林靖副部長、宇野雅樹委員
佐々木修一委員、竹澤裕之専門委員、森 茂樹専門委員、若田部紀代子専門委員
4. 会議次第
 - (1) 前回会議の議事録(案)の確認
 - (2) 平成27年度 健康推進課決算について
 - (3) 平成27年度保健事業について
 - (4) 平成27年度休日夜間急病センター実績について
 - (5) その他

5. 会議内容

○事務局

お晩でございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成28年度第2回地域医療推進部会を開会いたします。

本日の委員の出席は、地域医療推進部会、委員9名中、7名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数に達していますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

●部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。

この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。

議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

よろしいですか。なければ、議事録は了承されたものといたします。

次に、「平成27年度健康推進課決算について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

○事務局

資料1平成27年度 健康推進課決算の概要について、ご説明させていただきます。

資料の差し替えがございます。配布してあります資料1の差し替えをお願いします。

修正部分は、左上健康推進費の健康まつりの負担金が100万円になっておりましたが、健康推進費からは70万円の支出でしたので修正しています。その他、右下の健康教育費のうち、自殺対策の59万7,605円が内数でしたが、合計に入っていませんでしたので修正しています。

資料1をご覧ください。総事業費は11億6千47万9,421円でした。

内訳ですが、まず資料左側、「保健衛生総務費」は決算額3億1千981万8,607円でした。

主な事業としまして、「保健衛生推進費」として、健康まつりの運営費の負担、重度心身障害者歯科治療事業及び難病連十勝支部の事業への補助などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進

員と健康づくり推進員の養成及び育成、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保と活性化のための各種事業への補助、「訪問看護促進費」として、北海道在宅医療ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の室内ゲートボール施設の運営管理、「高等看護学院運営分担金」として、十勝管内19市町村で運営している高等看護学院の運営費、「看護師等養成機関確保対策費」として、市内に2箇所ある看護師養成機関に対する補助、「帯広厚生病院運営費補助事業費」として、管内19市町村による帯広厚生病院の運営支援、「介護老人保健施設整備補助事業費」として、平成24年度建設の市内の介護老人保健施設への補助などを実施しました。

次に「保健福祉センター費」は、決算額4千281万4,067円でした。東8条南13丁目にある保健福祉センターの適切な管理運営に努めてまいりました。

次に、資料右側「予防費」は、決算額4億6千902万2,524円でした。

主な事業として、「がん検診、健康診査費」として、各種がん検診、市民健康診査、肝炎ウイルス検診などのほか、「予防接種費」として、各種定期の予防接種、「感染症予防費」として、65歳以上の高齢者及び中学3年生、高校3年生に対する季節性インフルエンザ予防接種、65歳以上5歳刻みの高齢者に対する成人用肺炎球菌ワクチン予防接種、エキノコックス症検査、「結核予防費」として、結核検診、「健康相談費」として、保健師や栄養士のほか精神科医師や心理相談員などの専門家による相談、「健康教育費」として、各種健康講座、スマートライフプロジェクトの推進、ゲートキーパーの養成などの自殺対策事業、「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導、「身体障害者体力向上事業費」として、保健福祉センターでの身体障害者を対象にした身体機能向上を目的としたトレーニング事業などを実施しました。

最後に、「夜間急病診療費」は、決算額3億2千882万4,223円でした。

主な事業として、「休日夜間急病センター管理運営費」として、指定管理による休日夜間急病センターの適切な管理運営のほか、「救急医療対策費」として、二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセンターなどの運営の委託、補助を行いました。また、昨年度より道東ドクターヘリに加入し、十勝圏域でドクターヘリが運航されています。

以上、平成27年度決算の概要でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

◎委員

ドクターヘリは、今年は飛ばなかったんですか？

○事務局

平成27年度中は、実績はありませんでしたが、施設間移送で使用されていると聞いております。すべて釧路市立病院から国立療養所への移送だったと聞いています。二件ほどあったと聞いています。

●部会長

先日の会議（救命救急センター）で話がでていましたが、ニーズはあるけれど、道東ヘリ、道北ヘリに依頼するとなると敷居が高いという意識がかなりあり、ためらう。救急車での移動となる。あと、いかがでしょうか。よろしいですか。なければ、議事録は了承されたものといたします。

次に、「平成27年度保健事業について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

○事務局

平成27年度保健事業についてご説明いたします。

資料2の1ページ目の「1.保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

(1) 事業等の利用状況であります、表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。
平成25年度、26年度に比べ、平成27年度は利用件数、利用者数とも、若干減少しております。育児サークルの減少により利用が減っていることが主な要因です。

(2) 各種相談の利用状況では、平成25、26年度に比べ、利用件数が少なくなっています。これは、ことばの教室が、事業の見直しにより、市内10ヶ所の発達支援事業所で利用できるようになったため、保健福祉センターのことばの教室利用者が減ったことが主な要因です。

次に、「2.感染症などの予防」をご覧ください。

(1) 予防接種の実施状況では、平成26年度10月から定期接種となりました水痘ワクチン、三種混合から四種混合への変更が反映されております。他は、例年通りの推移となっております。

次に、2ページ目をご覧ください。

(2) 結核検診の実施状況につきましては表のとおりとなっております。

(3) インフルエンザ予防接種の状況ですが、中3、高3と65歳以上の高齢者に対する接種事業を実施し、実績は記載のとおりとなっております。

(4) 成人用肺炎球菌予防接種は平成26年度10月に開始となり65歳以上5歳刻みの年齢の高齢者を対象に実施しています。対象年齢がわかりづらいこと等から、対象者へ個別に周知しています。実績は記載のとおりです。

(5) エキノコックス症検診の実施状況については、表をご覧ください。

〔資料2-1〕予防接種の接種率について説明いたします。

お手元に配付の資料2-1をご覧ください。

三種混合ワクチンとポリオについては、平成24年11月より四種混合ワクチンへと移行されております。0歳児から接種する四種混合ワクチン、BCGについては高い接種率となっております。

麻しん風しん混合ワクチンについては、一期1歳児の接種率は97.9%ですが、二期年長時については93.9%となっております。

二種混合については、11歳～13歳未満が対象者のため、乳幼児より低い接種率で推移しております。高齢者の肺炎球菌予防接種につきましては、接種率が若干減少していますが、65歳以上5歳刻みが対象ということもあり、対象者となる前に任意で接種されている方も増えていると考えられます。

高齢者のインフルエンザにつきましては、横ばいで推移しております。

中3高3のインフルエンザにつきましては、年々対象者数が減少しており、接種率も減少傾向となっております。資料2-1の説明は、以上でございます。

2ページ目中段、「3.生活習慣病の予防」をご覧ください。

(1) 健康教育の実施状況では、働き盛りの人への健康づくりを進め、年々企業からの依頼が多く、回数・人数ともに増加してきています。

(2) 健康づくり講座・教室では、表のと通りの事業を実施してきております。

3ページをご覧ください。

(3) 健康相談、(4) 訪問指導、(5) 身体障害者体力向上トレーニング事業につきましては、表のとおりとなっておりますのでご覧ください。次に、

(6) 検診の実施状況であります、それぞれの検診で増減ありますが、全体としては横ばいとなっております。(7) 市民検診・健康診査の保健指導と、4ページ(8) 健診事後指導についても記載のとおりであります。

〔資料2-2〕各種検診受診者の推移について説明いたします。

お手元に配付の資料2-2をご覧ください。

がん検診については、乳がん、前立腺がんを除き、前年度と比べ受診率は若干減少しております。

国の無料クーポン事業が21年度から開始となり、平成26年度は21～24年度にクーポンの対象となっていた未受診者に再勧奨を行いました。平成27年度は平成25年度1年間の未受診者への再勧奨だったため、大幅に事業対象者が縮小となったことが受診率が減少した要因と考えられます。

なお、資料2-2の受診率は、帯広市第6期総合計画に基づき、対象年齢に70歳以上も含んでおりますので、けんこう帯広21の計画に基づき、対象年齢を69歳までとした受診率とは数値が異なりますので、ご理解ください。

資料2の4の4ページ

「4. 自殺対策」では、自殺者の実態把握を行った「地域分析」の結果をもとに、平成26年度から自殺対策講演会・若年女性向け講座に取り組んでおります。平成27年度は保健福祉センターで行うゲートキーパー研修会のほか、地域に出向いて講演するゲートキーパー講座を実施しております。

最後に、「5. 救急医療体制に関する実施状況」であります。帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病者の発生に対処するため、休日夜間急病センター運営事業や、医療機関の協力を得て在宅当番医制や二次救急医療体制を確立しております。

休日夜間急病センターの実績につきましては、議事の(4)でご説明させていただきます。平成27年度保健事業については、以上でございます。

●部会長

ただいまの資料2の1ページから4ページ、資料2-1.2-2の事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

◎委員

まず高齢者の肺炎球菌ワクチンですが、先ほど任意接種されている方もいるとのことでしたが、5年で積み残しもあると思いますが、5年というのは、今後どのような方法で進んでいきますか。

○事務局

実際、補助の対象となる方は当該年齢に打たれる場合のみで、それを過ぎると任意接種となるので、その年度に適切に接種いただけるように、個別の接種勧奨をしております。

◎委員

5年の中で一回しかチャンスがないわけですね。あまり知られていないのでは。

○事務局

実際に問い合わせでも、去年65歳だったけれど、今年受けていいのかという問い合わせがありました。それはもう、補助の対象にはならないけれど任意で自己負担で受けていただくのは構わないというご説明をさせていただかなければならない。

◎委員

そうすると現実的にためらう場合もありますよね。そのあたりを周知していただくとよいと思います。

検診受診者の比率なんですけれど、対象者が減って、なおかつ受診率がさがったということがよくわからないんですけれど。

○事務局

全体の対象者ではなく、クーポン事業対象者です。クーポンがきたから受けるという方が多かったのか、個別にクーポンが送付されなかったため受けなかったものと推測されます。

●部会長

補足しますと高齢者の肺炎球菌ワクチン、年間、対象外で自費で受ける人10人から15人くらいいると聞きます。制度そのものが、5歳刻みにすることの不備があることは、わかっていますか

ら、受けない人に関しては、23 価とプレベナー13 価、それぞれ両方打つ方もいますが、積極的にやっています。また年度初めに積極的にクーポン配っていらっしゃいますよね。積極的にきたらこちらも、打つようにと言いますから、各医療機関ではコマーシャルしているはずで。

集団で接種率を上げておかないと感染症が撲滅されませんから、65%くらいにもっていきたい。減ってきているので、広報活動をよろしくお願ひしたいと思います。先ほどのクーポンの事業がなくなって受診率がもし減ったとしたなら、次年度以降どうしたらいいかということを考えてほしいと思います。やはり大切な部分でないかと思ひます。やはり数字見ていると、絶対受けないよという方はいらっしゃると思ひますけれど、負担が少なくコストもかからない検診も多々あると思ひますので、もう少し受診率があってもいいと思ひます。

○事務局

今までクーポンで無料ということで受診していただいたのですが、国の事業としてひと通り終わったということで受診率も落ちてきている。乳がん、子宮がんは芸能人がかかって、PRすることで、受診率が上がるという要素はあると思ひます。先程部会長がおっしゃっていたように大腸がんの場合は便で潜血があればという比較的簡単な方法があるので、PR等で力を入れていきたいと思ひます。

◎委員

国の施策がなくなれば、全国的になくなると思ひるので、その差を埋める何かがあれば帯広市は住みやすいとなるかもしれない。

◎委員

胃がん健診はバリウムで行っていると思ひますが、カメラは無理でしょうか。医学的なことはわからないのですが、最初からカメラを行うというのは無理なんでしょうか。バリウムに引っかけカメラをするという順番なんでしょうか。

●部会長

それは、検診事業としてそういう約束事で動いてた。

○事務局

国の要綱では、バリウム検査となっています。がん検診のバスでバリウムを飲んで写真をとる。今年から国の要綱が一部変わって、カメラもいいですよということになりましたけれど、これまで40歳以上がバリウム対象だったのですけれど、50歳以上でカメラもいいですよと、ただし、撮った画像を、二人の医師が確認するということですか、委員会を作るなどして検討するなどハードルがあるものですから、まだその辺をどうするかということで市で検討しているのですけれど、国の流れとしては、今までバリウムできていましたが、胃カメラもよいということになった。科学的な所見から見るといいですよ。当面は両方実施できる状況。最終的にはコストの部分がありますから。

◎委員

多少の個人負担があってもよい。経験上、バリウムをやるよりは、カメラを直接やった方が正確に見れるのでそういう思考の人もある。バリウムをして、またカメラをしなければならぬ、2回しなければならぬ症状の方もいる。本人の希望があれば、最初からカメラをできるようにしてほしいと思ひます。

○事務局

医療機関の検診の状況ですが、検診事業について、人間ドックなど医療機関で実施しております。併せて、市の検診をお願いする場合、枠がありまして、週に何日間何名程度という人数的な制限が

ありまして、その割り振りなどが課題になっております。

●部会長

補足しますと、内視鏡のカメラの技術が非常に発達したことによって、胃の中を自由に見逃すことがなくなってきたというのが大きな変更の理由です。これまでは、カメラでは、全体像を見れない場所ができていた。その全体像を胃のバリウムで撮るという理にかなうものであった。今はカメラが発達してきたので、だいたい全部見れるということも変わってきた部分です。ただ、実際カメラをする場合、胃内視鏡専門医が二人以上で見るということでマンパワーを求められるんです。だから、どの医療機関いってもカメラをやるというわけにはいかない。医療機関側のハードルもあって、実際、帯広十勝でやれる医療機関もいくつかあると思うんですけど、全部が全部、検診に置き換えるにはもう少し時間がかかるという感じです。

あと、いかがですか。

昨日の新入学児童健診へ行って、はしかのワクチンが一時足りなくなるということで、連絡報道あったと思うのですが、私の健診に行った小学校では、接種率が70%くらいなんです。お母さん方に早く打つよう言ったら、ワクチンがないからもう少しまってくれ等、情報が錯綜しているみたいなんですね。医療機関として正確な情報を把握しておくことは必要だと思うんですけど、大丈夫とか言ってもらえるとありがたい。今日うちの病院から健康推進課に確認してみたら、大丈夫だったんですね。それで、校医として、昨日健診へ行った小学校を通して父兄に流してもらいました。

○事務局

入学前の年長時、二期目ですね。

●部会長

二期目の方です。タイムリミットがあるんです。

あと、いかがでしょうか。

私からもう一つ、資料の3ページ目、市民健康診査の保健指導の人数。すごく人数が少ないですが、どういう数ですか。

○事務局

市民健康診査は特定検診とは異なります。40歳以上の手前の35歳～39歳までが、市民健康診査と言っております。若年の特定検診の手前の世代の診査ということで人数的にはこのくらいになっている。

●部会長

事業所健診の結果を見ていると、もっといそうな気がします。受ける数にもよるんでしょうけれど。

◎委員

糖尿病の予防講座なんですけど、歯周病が合併症になっていくので、こういう場面で話す機会がほしい。検討してもらえればと思います。

○事務局

私どもでやっている、糖尿病の講座の時に、歯周病の話をとということですか。それは、歯科医師会のどなたかが来てということですか。是非、うちの保健師が講師をしているものですから、そのような場に専門的な先生が来ていただくと非常に内容が充実するので、よろしく願います。

◎委員

1 ページ目、栄養相談ですが、下の段の健康相談に含まれているのかと思いますが、教育的な部分があると思うんですが、今後改善していく予定はありますか。高齢者の低栄養状態を改善していくというような。

この栄養相談は、どういう相談なんですか。

○事務局

この栄養相談は、個人の方が、自分の健康について、栄養状態を知りたいという時に、栄養士が面談等で状態を聞いて、指導するものです。年齢的に低栄養の改善をするということを中心に行っているものではない。健康について、日常生活の中で、栄養に関する相談窓口を設けて定期的に面談で指導を行うものです。

◎委員

それを今後、栄養の問題、それによっていろんな疾患にかかるですとか、重症化するとか、それを使った市民に啓蒙的なものというか、何かの折りにでも検討していただけるとよいかと思います。

○事務局

健康推進課とは別なんですけれども、高齢者福祉課というところで介護予防という形で栄養の部分を行っています。対象者がどうしても高齢になってくる。ターゲットを絞って行う方法も介護予防と連携しながら考えていきたいと思っています。

●部会長

健康相談の中に栄養相談も入ってますから、わかりにくい。一本にするなど、難しいと思いますが検討してみてください。いわゆる多くの方が相談に訪れるように。あまり絞り込むと来にくくなるのかなという思いもある。

○事務局

栄養相談だけという方もいるので、分けさせていただきました。

●部会長

あと、いかがですか。なければ、質疑を終了いたします。

次に、「平成 27 年度帯広市休日夜間急病センター実績について」、事務局から、説明願います。

○事務局

それでは、次に「帯広市休日夜間急病センター実績について」ご説明いたします。

お手元に配付の資料3をご覧ください。

休日夜間急病センターは、平成 26 年度より新築移転し、休日と夜間の初期救急を指定管理により運営しています。

平成 27 年度の患者数の実績につきましては、夜間は、年間合計で 7,069 人と、前年の 99%、休日は、8,937 人で前年の 100%となっており、前年並みで推移しています。

休日夜間急病センターの運営にあたっては、「運営専門会議」を設置しており、継続的に検討協議を行っていきます。説明は、以上でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

一年を通してみましても夜間の患者さんの推移についても平成 26 年度 27 年度もほぼ同じ数で、休日という 70 日を考え合わせても同じであったということです。平成 27 年度は 366 日と一日多くありましたが、ほとんど同じということですね。町村別の割合で見ると夜間については市民が若干増えている。逆に休日は市外の方の利用が若干増えているということですね。

その他、ご意見よろしいですか。なければ、この議題は終了とします。

その他あれば、お聞きします。私からですが、資料1の予算の保健衛生費の公衆浴場、バス送迎事業0円とあります。

○事務局

これはですね、大空大地に、銭湯がなくなり15年くらい経過しますが、市営住宅の中で、お風呂がない方がいて、送迎バスをずっと出しておりました。だんだん、お風呂のない方が減ってきて、高齢者のお出かけサポートバスの普及も関係し、大空の方も街に来れるということで、バスの送迎をなくしたので、項目だけ残っています。

●部会長

大空の町内会の方々の集約をして、行ったということですか。

○事務局

当時は、風呂なしの市営住宅が多かったのですが、建替によりほとんどそういう住宅はなくなったため、その時の事業の名残です。

●部会長

子供の頃、川西にいたころ、よく大空の銭湯へ行っていたくらい、良い温泉がありました。

○事務局

帯広市内に12の銭湯がありますが柏林台を除いて、全部温泉です。他の都市より非常に恵まれている環境です。

●部会長

よろしいですか。なければ、質疑を終了します。

その他について、事務局から何かありますか。

○事務局

それでは、その他で「前回部会での委員の皆様からのご意見について」ご報告いたします。

前回の部会で、日本脳炎の周知について、各高校へポスターの掲示があったほうがよいのではないかというご意見がありましたので、10月下旬に、掲示用のポスターを市内及び近隣町村の高校14校へ送付しております。

また、保育所での服薬が難しい状況になっているというご意見がありましたので、こども課へ確認しましたところ、保健所より薬の投与は医療行為であり、保育士が行うことは望ましくないが、医師の指示書があれば可能としているとのことでした。現状としては、保護者に指示書を提出してもらい、保育士が薬の投与を行っているとのことでした。

報告は、以上でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、よろしいですか。

◎委員

一回ごとに指示書（診断書）ということになるので、有料で発行している。お母さん、特に母子の方は負担になっていると思われる。一回風邪をひいて、直ってからもう一回ひくともう一回となる。

◎委員

昔は1度提出すればよかったが、今はそれもできないため、先生方もご苦労されて、2回/日の薬を処方されることも多い。

●部会長

次に、委員の皆様から何かありますか。

なければ、事務局から何かありますか。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、例年2月に予算等をご説明するため審議会の日程と併せて設定させていただいているところであり、具体的には部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

●部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。

本日は、これで閉会といたします。

お疲れ様でした。